

メガホン

2022 AUTUMN Vol. 13

発行：富岡町図書館

特集／著者は福島県人である

富岡町図書館



今回のテーマ
日本全国各地本

図書館員のおすすめ本

日本の各地を題材にした本を集めました。
歴史探訪に食べ歩き、文化体験も捨てがたい！
さあ、次はどこに行ってみますか？



最後の秘境東京藝大
天才たちのカオスな日常
二宮 敦人／著（新潮社、2019年）
東京・上野に位置する芸術系大学の最高峰、東京藝術大学。その実態を明らかにすべく、学生たちの日常に迫るインタビュー集。エキセントリックな人物ばかりかと思いきや、自らの表現を全力で模索する努力家の姿が。学生たちのすべてがまぶしい一冊です。



ドローンで迫る伊豆半島の衝突
小山 真人／著（岩波書店、2017年）
フィリピン海プレートに乗って太平洋を北上した島は、やがて日本の本州に激突し、伊豆半島となりました。伊豆に豊富な温泉と景勝地があるのはこのためです。ドローンを使って上空から撮影された写真は、衝突の激しさと恩恵をひと目で展望することができます。

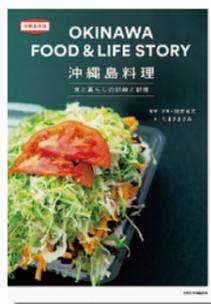


巽撃ち
久保 俊治／著（小学館、2012年）
少年の遊び場は自然の中だった。父と山に入り自然に触れ、刃物の使い方を覚えた。そして、狩猟で生きていくことを決めた。必要な言葉のみで淡々と書かれた文章から、景色が眼前に広がっていく。五感を研ぎ澄まし獲物を狙う追体験ができる本。命を頂くことについても考えさせられる。



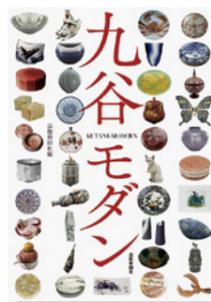
屋上のウインドノーツ
額賀 滯／著（文藝春秋、2015年）
舞台は茨城県の県立高校。何事にも無気力だった志音が吹奏楽部の大志と出会い、共に東日本大会出場を目指す青春小説です。演奏シーンは臨場感があり、音が伝わってくるようです。心の傷を抱えながら懸命に音楽に打ち込む姿が清々しく、読後はとても爽快です。

沖縄島料理 食と暮らしの記録と記憶
岡本 尚文／監修・写真 たまきまきみ／文（トゥーヴァージンズ、2021年）



琉球王国として栄え、発展してきた沖縄には独特の文化や歴史があり、食文化もそのひとつ。ラフテーやミミガーなど豚を使った伝統料理が数多くあり「豚に始まり豚に終わる」といわれるほど。沖縄の暮らしの記録と記憶を綴った一冊です。

九谷モダン
芸術新聞社／編（芸術新聞社、2019年）



石川県南部で生産されている磁器、九谷焼。鮮やかな色絵や驚くほど緻密な模様が施されたもの、独創的な造形のものなど、多彩な技法が魅力です。その背景には、新しい表現に挑み続け、それが伝統として定着してきた歴史がありました。作り手の熱が伝わってくる一冊です。

富士日記
武田 百合子／著（中央公論新社、2019年）



作家である夫・武田泰淳と富士の山荘で暮らした日々の記録。食事の献立や地元住民との交流、愛犬の様子などが綴られ、読んでると著者の元気で温かい人柄が伝わってくる。富士山麓の厳しくも美しい自然のなかでの生活を疑似体験できる一冊。



〒979-1151 双葉郡富岡町大字本岡字王塚 622-1
電話：0240-21-3665 FAX：0240-23-5225

蔵書検索は
こちらから



開館時間 火～日(祝日、休日を除く) 午前10時～午後6時 休館日 毎週月曜日、祝日、月末館内整理日
★ 読みたい本が図書館にないときは、予約・リクエストができます。カウンターに直接またはお電話でお問い合わせください。

福島ゆかり、いろいろと。

今回の特集では、福島県にゆかりがある著名人の作品に改めて注目します。文学作品に限らず、各分野で活躍している人物を図書館の分類番号ごとに紹介します。

0 総記



ねもと あきら
根本 彰 いわき市出身

東京大学名誉教授。図書館情報学博士。地域と図書館を題材にした研究等に取り組む。

情報リテラシーのための図書館

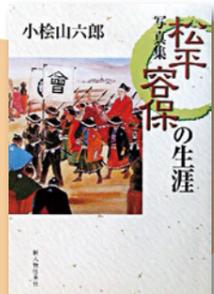
日本の教育制度と図書館の改革
根本 彰／著（みすず書房、2017年）

情報リテラシーとは、情報を正しく使って自分の問題を解決する力のことです。それを養う場である図書館が、日本ではあまり重宝されてこなかったのはなぜなのでしょう。教育制度と図書館の社会史をふりかえって明らかにします。

2 歴史

まつだいら かたもり
松平 容保
会津藩9代藩主

幕末の大名。京都守護職。のちの新選組である壬生浪士組を誕生させた。



写真集 松平容保の生涯

小松山 六郎／著（新人物往来社、2003年）

波乱万丈な生い立ち、そして家族の様子を写真で伝え、容保の人となりがよくわかる一冊です。砲弾を受け満身創痕の若松城の写真は胸に迫ります。

3 社会科学

あさかわ かんいち
朝河 貫一 二本松市出身

歴史学者。イェール大学教授。欧米における日本研究にも貢献した。



日本の禍機

朝河 貫一／著（講談社、1987年）

日露戦争の後、軍国主義に突き進む祖国を憂え「世界に孤立して国運を誤るなかれ」と警鐘を鳴らした書です。歴史学者の慧眼が国も時代も越えて、平和の実現を訴えかけます。

4 自然科学

わたなべ じゅんいち
渡部 潤一 会津若松市出身

国立天文台首席教授。国際天文学連合にて、冥王星を「準惑星」とする決定に加わった。



古代文明と星空の謎

渡部 潤一／著（筑摩書房、2021年）

世界各地に残る遺跡から、古代文明における天体観測術を探ります。その知見が、方角を定める、暦を作る、海を渡るなどの技術を発達させ、文明に与えた影響を考察します。

1 哲学

げんゆう そうきゆう
玄侑 宗久 三春町出身

臨済宗僧侶。『中陰の花』で芥川賞受賞。小説、エッセイ、対談など著書多数あり。



死んだらどうなるの？

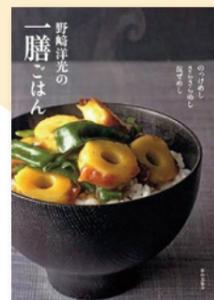
玄侑 宗久／著（筑摩書房、2005年）

著者が「死」「あの世」「魂」について、自らの体験談も含めつつ宗教的な観点や科学的な見方も踏まえ、多様な考え方を紹介します。ユーモアあふれる語り口に導かれ、肩の力を抜いて死後の世界に思いをめぐらすことができます。

5 技術

のぎき ひろみつ
野崎 洋光 古殿町出身

「とく山」料理長を経て、東京西麻布に日本料理店「分とく山」を開店し、総料理長となる。



野崎洋光の一膳ごはん

野崎 洋光／著（家の光協会、2010年）

主食のごはん一膳分を、具材を乗せる・かける・混ぜる、汁をかけるなど、料理人の発想を家庭でできる調理法で、簡単においしく食べるレシピを紹介します。

つぶらや えいじ
円谷 英二 須賀川市出身

18歳で映画界に入り、現在に通じる様々な特殊撮影技術を確立した。

ウルトラマンの現場

円谷プロダクション／監修（小学館、2016年）

1966年「ウルトラQ」の放映が開始され、続いて「ウルトラマン」シリーズが誕生しました。数多くのスナップ写真から、当時のスタッフの映像制作にける熱気を伝えます。



8 言語

こばやし きんじろう
小林 金次郎 福島市出身

教育者、詩人、郷土史家。福島県の教育界、文学界で活躍。

福島の方言 方言は生きている

小林 金次郎／著（西沢、1972年）

福島県の方言の区分や語り部の紹介、昔ばなしなどをまとめた方言研究の集大成です。巻末には多くの人に向けた感謝の言葉が綴られ、著者の人柄がうかがえます。



すがの ゆきむし

菅野 雪虫 南相馬市出身

児童文学作家。講談社児童文学新人賞を受賞し『天山の巫女ソニン』でデビュー。同作において日本児童文学者協会新人賞を受賞。

さくま のぶゆき
佐久間 宣行 いわき市出身

テレビプロデューサー。演出家、作家として数々の人気バラエティ番組を手がける。



普通のサラリーマン、ラジオパーソナリティになる
佐久間宣行のオールナイトニッポン0(ZERO)2019-2021
佐久間 宣行／著（ニッポン放送、2021年）

中学生の頃、真夜中に目が覚めて偶然かけたラジオ。それ以来、人生の苦楽はラジオとともに乗り越えてきました。そんな著者が、43歳にして憧れの番組のパーソナリティに！てらいのない語り口に、くすっと笑える一冊です。

6 産業



たべい じゅんこ
田部井 淳子 三春町出身

登山家。女性で世界初のエベレスト登頂に成功。山の環境保全活動にも奔走した。

高いところが好き 最高峰に魅せられて
田部井 淳子／著（小学館、2007年）

世界七大陸の最高峰登頂の記録です。ひとりの女性が自然体で登山を楽しむ様子が綴られています。「一步一步進めば必ず着く」…さりげなくも強い意志を感じる言葉です。きっと山々も彼女の到着を待ちわびていたに違いありません。

9 文学

天山の巫女ソニン

菅野 雪虫／作（講談社、2006年）

不思議な力をもつ落ちこぼれ巫女ソニンと口のきけない王子が出会い、テンポよく進む物語です。明るく誠実なソニンが、慣れない下界で成長していく様が頼もしく、愛おしく感じられます。やわらかな文体で読みやすく、小学生から大人まで楽しめる東洋風異世界ファンタジーです。